

様式第7号ウ

<子ども教育学科> (認定課程: 中一種免(保健体育))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	コミュニケーションの基本や将来のキャリア形成に関わる66条の6に関する科目を中心に教養科目を履修し、社会人として求められる基礎的能力を身につける。また、スポーツの実践を通して生涯に渡ってスポーツに取り組むことの大切さについて考える。さらに、教員として必要とされる教育心理学の基礎知識を修得し、子どもの発達段階に応じた対応の必要性を理解することができる。
	後期	前期に引き続いて教養科目を中心に社会人や教員として求められる基本的な資質能力を培う。また、教育の理念並びに教育の歴史や思想を理解し、それらに基づき教育の本質に関して深い考察ができるようになる。さらに、大学での学びを理解したうえで地域社会の課題を探求し、実践していく姿勢を身につける。
2年次	前期	教職の専門性や求められている教員像、教職の意義や役割、職務内容について理解することができる。また、教科及び教科の指導法に関する科目を通じて、体育分野の学習指導の基本的事項を修得し教育実践に活かすことができる。教育実習Ⅰでは、現場を踏まえた実践力を養い、3年次における教育実習Ⅱへとつなげていくことができる。
	後期	教育方法や教育技術に関する基礎的な理論を理解し、情報機器の活用を含めた様々な教育方法や学習指導案の作成方法を修得する。また、自身の教員としての適性を考え、特別の支援を必要とする生徒に対する理解を深めるなど、教職を目指すものとして必要な資質の向上に常に意欲的に取り組むことができる。さらに、情報通信機器を活用した教育の理論や方法の修得と模擬授業の実施を通して、修得した指導法を活かした、より効果的な授業を実践することができる。
3年次	前期	生徒指導や進路指導の基礎的な理論及び方法を修得し、個々の子どもの特性や状況に応じた指導を考えることができる。また、教員志望の意識を強く持ち、教育実習生として教壇に立つための基本的な技能や素養、教科に関する専門的知識を身につけている。さらに、教科及び教科の指導に関する科目を通じて保健分野の学習指導の基本的事項を修得し教育実践に活かすことができる。介護等体験では個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深め、教員としての資質向上を図る。
	後期	教育相談や特別活動の基礎的な理論や方法、総合的な学習の時間の指導法を修得し、教育実践や課題探究的な授業の構想に活かすことができる。また、道徳教育の指導法や基礎理論を理解し、それらを教育実践に活かすことができる。さらに、教育実習の経験を経て、教員を目指すうえでの自己の課題を自覚することができる。
4年次	前期	教育課程の編成に関する基礎的な理論や編成方法を修得し、学習指導要領の変遷や現行学習指導要領の特長についても十分理解している。教育に関する社会的、制度的、経営的事項を理解し、現代社会の教育問題をこれらの観点から検討することができる。また、教員を志望する者として、教育の本質を常に追求する、学び続けようという姿勢をもつことができる。
	後期	これまでの教科および教職に関わる学修と教育実習での体験を踏まえ、ロールプレイングや事例研究、フィールドワーク、模擬授業など実践的演習を取り入れた授業を通して、保健体育科教員に求められる資質や能力を再認識し、本学の教員養成に対する理念や本学が目指す教員像に合致した、中学校「保健体育」の教員免許を得るにふさわしい人物となることができる。